

# 春山合宿報告

3月16日(1日目)

上田 6:07 — 伊那大島 10:27 ~ 12:25 —  
落合 1:45 — 鹿塩 2:35 — 入沢井 3:50  
TS 4:10

北の上田に比べ緑の多い伊那谷を電車は春の目ごしをあげて大島へと向う。広河原行バスに乗り落合にて下車。入沢井部落に入ると腰にメダを付けた土地の女が「道は崩れていながらたか」と我々に聞く。こゝなる山奥では道一本に生活の全てがかかっているのだ。このころより雨降となる。部落を外れた所に小さな岩小屋を見つけ、ここに荷をおろす。わぐは田の中のワラ小屋を見付け、こゝではいいや。

3月17日(2日目)

出発 6:45 — 榎沢小屋 7:00 — 塩川小屋  
8:10 — 尻根へのとりつき 9:15 — TS 3:15  
翌快晴 三伏小屋までいかんとじつと上げ  
るも重荷に峠下30分の所でダウン  
ある小屋での湯番

山にはのぼるものにくたはるものはない

3月18日(3日目)

出発 6:10 — 峠の小屋 6:45 — 本谷山  
8:05 — 塩見岳 12:00 ~ 15 — 小屋  
3:50 — 帰幕 4:10

テントから首を出すと北に丈仙が、峠に出ると目前に塩見、南に悪沢、荒川が見える。権石街内をぬけると駒、北、南の岳が手に取るように並ぶ。塩見の最後のつめは、いやなからがらの岩と雪線が悪いのと合まってオウリキセシイ。頂上に出ると思わす叫びたくなる。大空の旗が、さ、さ、さ。

大モリ、みごとと石やほり等では日赤一の山だ  
目を180°回ると中央、北カルフスが全  
望できる、妙高灯台も見えるまぐさ木とわかるまで

19日(4日目)

昨日の帰幕より河原腹痛を起し何も食え  
ず、粥子を見るため沈殿とする。雪の上にはポン  
キヨを振付けているが真前に木曾駒のキヨ  
置(さかール、左に恵那山が見える。

20日(5日目)

出発 6:30 — 小河内岳 1:50  
出発の時恵那山を兼起しほじゆつと雲  
が、小河内岳に着くころは、雪は伊那谷を  
越え秋々の足もとにあよび風強くなる  
小河内岳の避難小屋留りになる。

21日(6日目)

沈殿

22日(7日目)

出発 7:10 — 大日影山 9:30 —  
高山裏 12:10 ~ 30 — TS 2:55  
4時起床昨日からの風はやまず外は霰  
雨だ、6時ころ風がおさまった、上空は  
高層雲が浮き伊那谷は雲でうまっアッ  
三株峠の物山のみが高嶺をぬし他はみな  
雲の中だ、特に洋上に浮ぶ北山のごと  
穂高がみじやだ

意を決し刀イセンを付け出たのが7時、雪  
がくさっているのですぐにワカンと変える、しかし  
気温高く雪の積はひどい、ボカスカ港5つ  
穴との峠だった、板屋岳をまくあたりは氷つた  
雪の上に軟雪が30CMほどあり苦労する  
高山裏からは夏道を通らず一息に直上する  
出たピークを少し下った所に天幕をほす。

23日(8日目)

出発 6:30 — カール 7:15 — 前岳 9:55  
中岳 10:40 — 大聖寺平 11:20 — TS 1:20

10分で尾根の最底コルに出る、ここよりトラバースして前岳から出る二本の尾根の間に出る、ここで快登に刀伊センをきかし登る最後は左側の尾根にとりつく、うかつな雪と氷の岩は重い荷がなくともイヤだ、ステップをききまみまごみ二本の尾根の合致点に出る、前岳までには3つの岩峰がある、雪の状況もいろいろで北傾りをまいて中岳との中道に出る、出発直後から追ってきた雲がついにまわりじゆを取りかこんでしまし、富士山のみがホツカリと頭を出している、悪沢岳をあきらめ前岳より出る尾根を下りる、刀伊センがかわり石になるほどのがし尾根だ、テントと決した所で真白な雪鳥天婦の歓迎をうく、

24日(9日目)

風雪強し沈殿、思えば昨日と今日は我が枝の入試だ"みんながこぼれ高慢な山ヤズラした俺たあも3年前は純情な後継者生た"のた、

ラーメン食器小盛り、干パン4枚、紅茶と4パティー5枚、刀×3粒 野菜炒り1皿 紅茶食器110円、ラーメン110円 食110円

3月25日(10日目)

出発 11:10 — 小赤石 11:40 — 赤石岳 12:05 — 帰幕 1:05

3月26日(11日目)

下りる尾根をマも向きえる、雨と10数回の猿徒渉で全身スグヌシ、5時ごろフラフラで小浜湯の所にテントを張る

3月27日(12日目)

飯田馬Rにて栗、杉本は北へ、河原は南へとわかれた